

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

【6.1.1】カリキュラムの編成方針と教育理念・目的との関係、カリキュラムの体系性と教育理念・目的との関係については十分整合性がとれており、研究科の理念である「基本原理に軸足を置いて先端的な研究を推進し社会貢献できる人材の育成」を達成しつつある。

認証評価で指摘された「専攻横断的」な講義科目の導入については、2006年度から「知的財産特論」を新規開講したが、今後とも専攻コンビーナ会を中心に検討を続けていく。

教育の一貫性については、4年生の卒業研究からそのまま博士前期課程大学院に進学するケースがほとんどなので、学部での基礎教育の上に大学院の先端教育を容易に積み上げることができる。さらに、博士後期課程進学についても、そのまま進学するケースが多いので、教育の一貫性という面においては全く問題がない。

先端的研究による教育の活性化では、大半の大学院の学生が文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業等（「9. 研究活動と研究環境」参照）の研究プロジェクトに参加して、高度な研究を通して、最先端の知識や技術を学んでいる。さらに、高度化推進事業等によって採用された博士研究員が多数おり、最先端の研究をしながら学生の指導も行っている。博士課程後期課程の教育システム・プロセスについては、学生に対しての学位取得条件の明確化と審査の客観性を高めるシステムの導入を検討している（「6.6.1学位授与」参照）。

【6.1.4】 【6.1.12】 大学院連携においては、生命科学専攻において理化学研究所発生・再生科学総合研究センターの研究者を客員教員として任用し、2007年度には2名の大学院生が指導を受け、実績が上がりつつある。また、2007年2月に物理学専攻、化学専攻が中心となり、大型放射光施設である「S P r i n g - 8」の設立母体である日本原子力研究開発機構と理化学研究所および高輝度光科学研究センターと連携大学院の協定を締結した。これにより、大学院生がこれらの機関の研究員の指導のもとに施設を利用することができるようになった。2007年度は6名の大学院生がS P r i n g - 8の客員教員6名による指導を受けている。現在さらに、医学系の大学や海外の大学とも連携を組む計画を遂行中であり、今後さらに幅広い教育・研究が期待できる。

学内第三者評価

「カリキュラムの編成方針と教育理念・目的との関係」「カリキュラムの体系性と教育理念・目的との関係」については整合性があり、研究科の理念である「基本原理に軸足を置いて先端的な研究を推進し社会貢献できる人材の育成」を達成する内容となっている点は、認証評価などでも評価されている。先端的研究による教育の活性化では、大半の大学院の学生が文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業等の研究プロジェクトに参加しているほか、理化学研究所発生・再生科学総合研究センター、大型放射光施設である「S P r i n g - 8」の設立母体である日本原子力研究開発機構と理化学研究所および高輝度光科学研究センターなど日本を代表する研究所との連携が進んでおり、大学院の教育研究に大きな効果が期待できる。